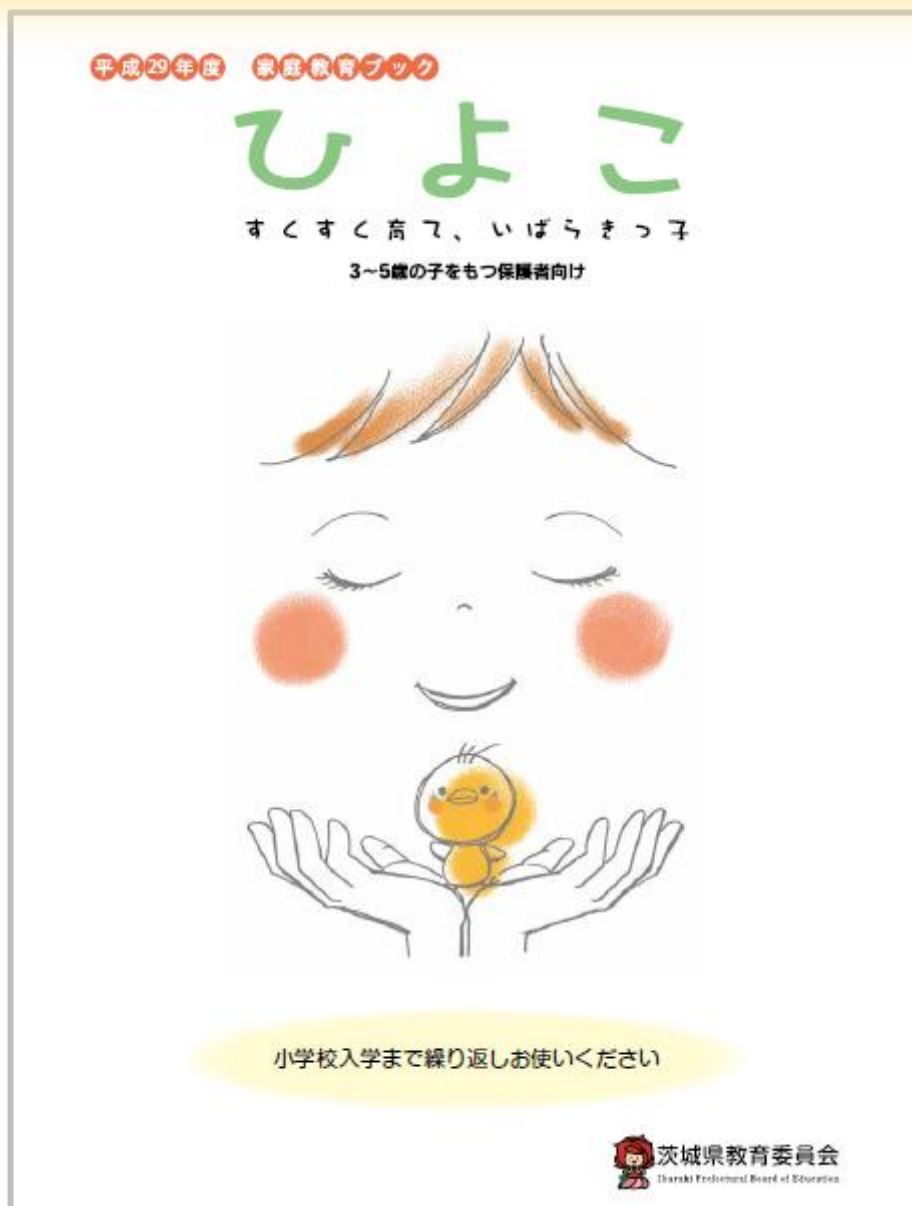


平成 29 年度

就学前教育・家庭教育推進のための市町村モデル事業

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」

実践プログラム集 I



茨城県教育委員会

幼児教育施設の皆様，家庭教育支援に携わる皆様へ

茨城県教育委員会では，乳幼児期からの家庭教育や就学前教育の充実を図ることが，生涯にわたる人格形成の基礎を培う上でたいへん重要であるにとらえ，保護者向けのアドバイスブックとして，子どもの年齢に合わせた家庭教育支援資料を作成・配布しています。幼児期である3～5歳の子どもをもつ保護者向けの家庭教育支援資料が「家庭教育ブックひよこ」です。

この「家庭教育ブックひよこ 実践プログラム集」は，平成29年度就学前教育・家庭教育推進のための市町村モデル事業を受託した5市町村（東海村，日立市，鹿嶋市，美浦村，八千代町）の協力を得て作成されたものです。入所（園）説明会や保護者会などで活用できる学習プログラムや，子どもの送迎時など短時間で活用できるアドバイスプログラムがあります。

各幼児教育施設におかれましても，この「実践プログラム集」を参考に，「家庭教育ブックひよこ」を活用し，保護者の学びの機会を積極的につくっていただくようお願いいたします。

なお，プログラムやワークシート，アドバイスカード等，即活用できるデータを茨城県ホームページに掲載しておりますので，ダウンロードしてご活用ください。

(<http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/syogai/katei/book.html>)

平成29年度実践プログラム作成協力市町村・幼児教育施設一覧

| | |
|------|--|
| 東海村 | 村立とうかい村松宿こども園，村立須和間幼稚園 |
| 日立市 | 茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園 茨城キリスト教大学附属認定こども園せいじ園 |
| 鹿嶋市 | 市立三笠幼稚園 |
| 美浦村 | 村立美浦幼稚園，村立大谷保育所，村立木原保育所 |
| 八千代町 | （学）ルンビニー学園たちばな幼稚園 |

目次

| | | |
|------------|-------------------|----|
| (ひよこ p.2) | ●家庭教育とは | 1 |
| (ひよこ p.3) | ●親子の絆 | 2 |
| (ひよこ p.4) | ●子育てのすばらしさ① | 3 |
| (ひよこ p.4) | ●子育てのすばらしさ② | 5 |
| (ひよこ p.5) | ●お父さんの子育て | 7 |
| (ひよこ p.6) | ●幼児期（3歳～5歳）の特徴 | 8 |
| (ひよこ p.7) | ●あいさつと返事の習慣を | 9 |
| (ひよこ p.8) | ●生活リズムの確立 | 10 |
| (ひよこ p.9) | ●きまりを守る心を育てる | 12 |
| (ひよこ p.10) | ●子どもの話をしっかり聴きましょう | 13 |
| (ひよこ p.11) | ●メディアの視聴 | 14 |
| (ひよこ p.12) | ●食育の大切さ | 16 |
| (ひよこ p.13) | ●いろいろな体験を① | 18 |
| (ひよこ p.13) | ●いろいろな体験を② | 19 |
| (ひよこ p.13) | ●いろいろな体験を③ | 20 |
| (ひよこ p.14) | ●積極的にお手伝いをさせましょう | 21 |
| (ひよこ p.15) | ●病気・事故 | 22 |
| (ひよこ p.16) | ●子育てチェックシート | 23 |



家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム

◎ 家庭教育とは




Column
 「家庭教育支援資料」は、保護者の悩みに応じて、適切な支援を行います。保護者の悩みに応じて、適切な支援を行います。

幼児期の家庭教育は、人間の土台をつくりまします。土台がしっかりしていないとどんなに素晴らしい家を建てようとしても、丈夫な家を建てることはできません。

人間も同じで、幼児期にしっかりと養育された生活習慣を身につけることと合わせて、自分を好きになる気持ち、他者を好きになる気持ちを持つことが大切です。家庭教育は、人間の土台をつくる最も重要な教育です。

| | |
|-------|---|
| テーマ | 『家庭教育とは』 (2ページ) ⇒ |
| 日時 | 平成29年10月25日(水) 13時10分～14時00分 |
| 場所 | 鹿嶋市立三笠幼稚園ホール |
| 対象者 | 鹿嶋市立三笠幼稚園保護者(3歳児～6歳児保護者) |
| 参加人数 | 70人 |
| プログラム | 学習プログラム ・ アドバイスプログラム |
| 学習形態 | 講演会 【講師】日本カウンセリング学会認定公認カウンセラー 武藤 幸枝 氏 |
| 準備物等 | ・ 講演会レジュメ ・ 家庭教育ブック「ひよこ」P2のコピー資料 ・ アンケート |


プログラム内容

| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
|-------|---|--|---|-------|
| 3分 | 1 開会(講師紹介を含む) | | 副園長 | |
| 3分 | 2 アイスブレイク | | 講師 | |
| 35分 | 3 講演「子供の生きる力を育む家庭の在り方」 ①子供の生きる力とは ②生きる力をつけると考えられる力が向上する ③子供の生きる力を育む親の生き方 | ・ 保護者同士顔見知りなので、短い時間で雰囲気作りをする。 ・ 話の中で、保護者からの意見を受けながら進めることで、一方的な講演にならないようにする。 |  | |
| 5分 | 4 質疑・応答 | | 副園長 | アンケート |
| 5分 | 5 閉会 (アンケートの記入) | ・ 家庭教育について、新たに思ったことがあれば発表してもらい保護者間の共有を図る。 | | |

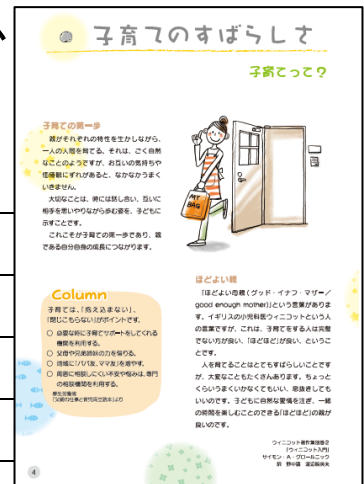
| | |
|--------|--|
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭教育(子育て)の必要性と親としての意識の違いで子供への影響が大きく変わってくることがよく分かった。 ・ 家庭教育ブック「ひよこ」を見ていなかったがこれから読んでみようと思った。 |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭教育ブック「ひよこ」について、配付されたが目を通していない保護者も多くいたが、これを機に読んでみようという意見が聞かれた。 ・ 配付されていない保護者もいたので、事前に調査し配付できると良かった。 ・ 子供への親としての関わり方を中心に講演をいただいたが、とても参考になったという意見が多く聞かれた。 |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム



| テーマ | 『親子の絆』 (3ページ) ⇒ | | | |
|--------------------------------------|---|--|---|----|
| 日時 | 平成29年11月15日(水) 13時30分~15時30分 | | | |
| 場所 | みどりが丘保育園 2階遊戯室 | | | |
| 対象者 | たちばな幼稚園保護者 | | | |
| 参加人数 | 60人 | | | |
| プログラム | 学習プログラム ・ アドバイスプログラム | | | |
| 学習形態 | 講演会 【講師】筑波大学客員教授 江上 いずみ 氏 | | | |
| 準備物等 | ・スクリーン ・プロジェクター ・パソコン ・資料 ・マイク ・筆記用具 ・感想カード ・椅子 ・机 ・演説台 ・立て看板 | | | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| 17分 90分 5分 3分 5分 | 1 趣旨説明 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者に積極的な姿勢で聴いていただけるよう、会場の机・椅子などの配置や室温などに気をつける。 講師の先生に、趣旨や目的などを事前にしっかりと伝え、聞く一方ではなく、対話的な講演になるようお願いしておく。 講演会后、テーマについて、各々が考えを巡らせるよう感想カードに記入していただく。 | 教育事務所主任社会教育主事 園職員 教育長 園理事長 小学校長  園保護者会長 園長 園職員 | |
| | 2 開会 教育長挨拶 理事長挨拶 講師紹介 | | | |
| | 3 講演 | | | |
| | 4 質疑・応答 | | | |
| | 5 謝辞 | | | |
| | 6 花束贈呈 | | | |
| | 7 閉会(感想の記入) | | | |
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ためになる内容だった。 親が子どもの手本になって行動していきたい。 忙しくても、子どもに笑顔で接していきたい。 家族に感謝の気持ちを大切に、それをもっと表現していきたい。 | | | |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> 家族内で言葉遣い、挨拶の大切さを伝え、自分も気をつけている。 子どもに笑顔が増え、外出先でも挨拶やお礼が言えるようになった。 講演会参加について、保護者へのアプローチの仕方に少し課題が残った。(関心をもってもらえない家庭もあったので) | | | |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム



| | | | | |
|---|--|---|-----------|----|
| テーマ | 『子育てのすばらしさ』① (4 ページ) ⇒ | | | |
| 日時 | 平成 30 年 2 月 2 日 (金) 13 時 30 分～14 時 00 分 | | | |
| 場所 | 茨城キリスト教大学附属認定こども園せいじ園遊戯室 | | | |
| 対象者 | 新入園児保護者 | | | |
| 参加人数 | 50 人 | | | |
| プログラム | 学習プログラム ・ アドバイスプログラム | | | |
| 学習形態 | 講義 【講師】茨城キリスト教大学 講師 佐藤 美年子 氏 | | | |
| 準備物等 | ・家庭教育ブックひよこ ・資料 ・アンケート | | | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| 3分 | 1 開会 | <ul style="list-style-type: none"> ・就園への期待を高めるとともに講師紹介をし、講話に興味を湧くよう導く。 | 副園長 | |
| | 2 園長挨拶(講師紹介含む) 主催者紹介 | | 園長 | |
| 30分 | 3 講義「子育てのすばらしさについて」 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育ブックひよこ、本日の資料の確認とともに話が聞きやすい雰囲気づくりを心がける。 | 副園長 講師 | |
| 1分 | 4 閉会 | | 副園長 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後、新入園児保護者説明会を実施した。 ・園行事(新入園児保護者説明会)と同日開催であるため、サブテーマ「新しい世界への第一歩を見守る中で」を設定し、入園後の子どもの様子や入園に向けた保護者の心構えなどについて、具体的な内容から「子育てのすばらしさ」につながる話となった。 ・園行事と同日開催であるため、短時間で講義のみを実施した。具体例を盛り込むことで、講義のみでも保護者の理解が深めることができる。 | | | | |
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞くと、深く根ほり葉ほり聞き出さない。それが子どもの安心感につながり、自分の心配事や思いを伝えてくれるようになるという話に共感しました。 ・子どもの安全基地になれるよう、自分の気持ちをコントロールしながら関わっていききたい。 ・子どもに安心感を与えられるよう、親もどっしり構えて一緒に成長していきたい。 | | | |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭は子どもの安全基地、港であるという講師の言葉にうなづく方が多かった。 ・子どもが自分の気持ちを整理し、自ら話し始めるまで待つことの大切さを再認識しているようだった。 ・「子育てのすばらしさ」という大きなテーマであるが、保護者が子どもの成長を見守りつつ、感動できるような内容となるようにすることが大切である。 | | | |

【講義の様子】



講義①



講義②

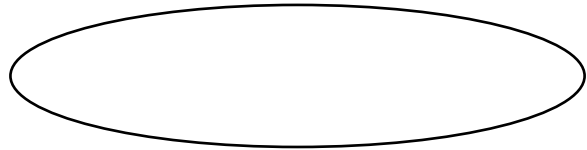
【資料】

子育てのすばらしさ
—新しい世界への第一歩を見守る中で—

1. ワクワク・ドキドキ！

* 「初めて」の気持ちを思い出してみましよう *

初めての ○○○ のとき



そのときの気持ちを思い出して
メモしてみましよう

ワクワク・ドキドキと一緒に共有してもらえる
安心感が“新しい世界への第一歩”を支えます

2. 家庭は子どもの安全基地

* どっしりと構えましよう *

「気持ちの安定」 + 「外へ向かうエネルギー」は、
“安心” という栄養をたっぷりもらって育まれます

3. 「うんうん」「へ～え」

* 幼稚園のお話をたくさん聴きましよう *

「そうなんだ」 「そんなことがあったの！」 「あら～ こまったね」
「それはびっくりしたね」 「それでどうしたの？」 「またやりたいね」

子どもと一緒にたくさん感動できる一時こそ、子育てのすばらしさを実感できる瞬間です

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム

● 子育てのすばらしさ

子育てって？

子育ての第一歩
 親子それぞれの特徴を生かしながら、一人の人間を育てる。それは、ごく自然なことである。おもしろい気持ちや困難に学ぶことがある。なかなかうまくいきません。
 大切なことは、勇気を持って、互いに手を差し伸べながら歩む道を、子どもに示すことです。
 これこそが子育ての第一歩であり、親である自分自身の成長につながります。

Column
 子育ては、「成長をまねない」、同じにならないのがポイントです。
 ○ 必要な時に子育てがひとりでできる環境を整える。
 ○ 夫婦や兄弟姉妹の力を借りる。
 ○ 地域（子育て、ママ友）を借りる。
 ○ 困った時に、ふたつ以上の専門家（医師、専門家）の協力を得る。
 育児支援
 子育ての専門家や相談員との

ほどよい親
 「ほどよい母親（グッド・イナフ・マザー/ good enough mother）」という言葉があります。イキイキとした母親がよい母親であるが、これは、子育てをする人自身でよい母親になる必要はないということです。人を育てることはとても難しいことです。大切なことはたくさんあります。子どもは、子どもらしく育つことが大切です。子どもは自然な成長を望み、一歩の成長を楽しむことができるほどよい親がよい母親です。

子育て支援センター
 子育て支援センター
 子育て支援センター
 子育て支援センター

| | | | | |
|---------|--|---|------------|----|
| テーマ | 『子育てのすばらしさ』② (4 ページ) ⇒ | | | |
| 日時 | 平成 30 年 2 月 9 日 (金) 13 時 30 分～14 時 00 分 | | | |
| 場所 | 茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園遊戯室 | | | |
| 対象者 | 新入園児保護者 | | | |
| 参加人数 | 46 人 | | | |
| プログラム | 学習プログラム | | アドバイスプログラム | |
| 学習形態 | 講義 【講師】茨城キリスト教大学 准教授 飛田 隆 氏 | | | |
| 準備物等 | ・家庭教育ブックひよこ ・資料 ・アンケート | | | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| 3分 | 1 開会 | | 副園長 | |
| | 2 園長挨拶(講師紹介含む) 主催者紹介 | ・就園への期待を高めるとともに講師紹介をし、講話に興味を湧くよう導く。 | 園長 | |
| 30分 | 3 講義「子育てのすばらしさについて」 | ・家庭教育ブックひよこ、本日の資料の確認とともに話が聞きやすい雰囲気づくりを心がける。 | 副園長 講師 | |
| 1分 | 4 閉会 | | 副園長 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後、新入園児保護者説明会を実施した。 ・園行事と同日実施であるため、短時間の講義のみとし、保護者の負担とならないようにする。 ・テーマを2つに分け、まず、保護者の皆さんの子育てを認める内容とし、保護者の気持ちを和らげた。次に、「家庭教育ブックひよこ」を用いて、生活習慣なども含めた講義を行い、保護者の実践に向けた意欲を高めた。 | | | |
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育が、すごく大切だということが分かりました。寝る時間が遅くなってしまったりするので、午後9時までにはしっかり寝かせ、心身ともに穏やかに過ごせるように努めたいと思います。 ・「育児はしっかりやっていると」と思い、頑張り過ぎてしまうことが多いが、ほどよい親で大らかな気持ちで育児できるよう心がけたい。勉強になりました。 | | | |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者は、家庭教育の大切さについて、入園前に改めて確認することができた。睡眠の大切さなど、入園に向け生活リズムを見直すよい機会となった。 ・新入園児保護者説明会は、内容量が多く保護者の負担が大きい。また、小さなお子さんを連れている保護者もあり、長時間化することは難しい。同日開催については、十分な検討が必要である。 | | | |

【講義の様子】



講義①



講義②

【資料】

「子育てのすばらしさ」

1. お母さん、お父さんはすでに気づかれてがんばっています。

- ・子どもに命を与えてくださいました。
見ていると癒されます、触ったり抱っこしたりすると、とても幸せな気持ちになります。
- ・毎日子どものことを考え、幸せになることを願っています。そして実行しています。
自分たちの生活を見直し「子どものために健康で長生きしたい」と考えます。
- ・子どもに毎日、安全・安心を与えています。
環境について注意深くなり、安全に対しても子どもの目線で確認できるようになります。
- ・子どもたちの成長・発達にとって必要なことを毎日行っています。
バランスの良い食事、適度な運動、季節の変化や自然を意識した生活を心掛けています。
- ・子どもの健康を毎日考えて下さっています。
睡眠・食事・排泄を意識して生活リズムに気を配って下さっています。
- ・みなさんのおかげで子どもたちは幸せです。
お父さん、お母さんが大好きです。触れる、遊ぶ、話を聞く、見つめる。幸せです。

2. 家庭教育ブック「ひよこ」からお話をいたします。

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム

● お父さんの子育て

Column
【父親が子育て参加に必要】
 代わりの子育て参加者の
 ヒント集です。

できることから始めよう
 お父さんの子育て！
 子供では義務ではなく
 楽しい権利です。



あるテレビ番組、父の日を前に、サラリーマンのお父さんたちが自分の日に一番楽しいものは？というアンケートをとったところ、「子どもと一緒にいられる時間」という答えが一番多かったそうです。お父さんたちも、できることから子供と一緒に参加したいと考えているのです。

父親の参加が不足する原因についての調査では、父親の参加に必要とする機会が多いと認めた仕事者が従来より、同時に母親の心を安定させるという結果が出ています。

しかし、そうは思っても毎日仕事をしている、育児に専念する母親はいくらでもあふれています。そんなときこそ少しの時間でもいいのです。

できることに、できることから始めてみませんか。

子育てを通じて自分の持ち場にも貢献やネットワークができます。

また、自分の持ち場での活動範囲が広がり、育児参加のよりどころが増えます。

| | |
|-------|------------------------------|
| テーマ | 『お父さんの子育て』 (5ページ) ⇒ |
| 日時 | 平成29年10月12日(木) 13時00分~13時30分 |
| 場所 | 東海村立須和間幼稚園 |
| 対象者 | 3歳児保護者 |
| 参加人数 | 15人 |
| プログラム | 学習プログラム ・ アドバイスプログラム |
| 学習形態 | 講義 【講師】村教育委員会幼児教育担当 |
| 準備物等 | ・家庭教育ブックひよこ |

プログラム内容

| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
|-------|--|--|------------|----|
| 3分 | 1 挨拶と自己紹介 | ・ 講義中もつぶやきや質問が飛び交うような雰囲気づくりを意識する。 | 講師 社教主事 | |
| 5分 | 2 ラーニングピラミッドの解説 | ・ 講義型の学習定着率は低く、思いを伝え合い、学びあった方が、学習が定着することを知らせ、活発な意見交換を促す。 | 講師 | |
| 4分 | 3 日本の母の現状の解説(サザエさんとクレヨンしんちゃん) | ・ 家族形態の変化をTV番組をモデルにし、実感を感じやすくする。(集団養育→ひとり養育) ※保育所であればワンオペ | 講師 | |
| 5分 | 4 愛情ホルモンオキシトシンの解説と注意(愛情と攻撃性) | ・ オキシトシンの解説により、母親の心情に理解を示す。 | 講師 | |
| 3分 | 5 攻撃性を安定させるパートナー(父)の重要性 | ・ パートナーの存在がポイントであることを知らせ、次のクイズへの期待を高める。 | 講師 | |
| 7分 | 6 デモンストレーション O×クイズ | ・ 傾聴型と助言型の父を演じることで、楽しみながら学べるようにする。(正解は傾聴型) | 講師 社教主事 | |
| 3分 | 7 まとめ ・ 育児参加で父もオキシトシンの分泌。 ・ 父の姿勢で、母の心も安定 | ・ 子に触れることでオキシトシンが分泌し、父も育児没頭できる。また、育児パートナーがいることで安定した子育てができることを確認する。 | 講師 | |
| | 8 終了 | | | |

| | |
|--------|---|
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 父親に聞かせたい。母親だけでは、意味がないのでは。 ・ もう少し、ゆっくりじっくり聞きたい ・ 自分の育児ストレスの原因を解説してくれたようで納得できる。 |
| 成果と課題 | <p>【成果】代表的なアニメやデモンストレーションを取り入れたことで参加者の反応が良かった。</p> <p>【課題】父親がいないことで、もったいないという意見が多数あった。できることなら、夫婦で聞けると良いと思う。</p> |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム



| テーマ | 『幼児期の特徴』 (6ページ) ⇒ | | | |
|---------|---|--|------------------|----|
| 日時 | 平成 29 年 10 月 10 日 (火) 13 時 00 分~13 時 30 分 | | | |
| 場所 | とうかい村松宿こども園 | | | |
| 対象者 | 3 歳児保護者 | | | |
| 参加人数 | 10 人 | | | |
| プログラム | 学習プログラム ・ アドバイスプログラム | | | |
| 学習形態 | 講義 【講師】 村教育委員会幼児教育担当 | | | |
| 準備物等 | ・ 家庭教育ブックひよこ | | | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| 3分 | 1 挨拶と自己紹介 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中もつぶやきや質問が飛び交うような雰囲気づくりを心がける。 ・ 講義型の学習定着率は低く、思いを伝え合い、学びあった方が、学習が定着することをクイズ形式で知らせる。 | 講師 社教主事 講師 | |
| 5分 | 2 ラーニングピラミッドの解説(ホワイトボードに描いて定着率をクイズ形式) | | | |
| 4分 | 3 各年齢の発達の土台とは(愛着やマズローの心理の階層の解説) | <ul style="list-style-type: none"> ・ ひよこ記載の発達は、「はじめに」の部分やP8の正しい生活リズムにより支えられることを知らせる。 | 講師 | |
| 15分 | 4 各年齢の特徴の解説 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人差があることを十分に伝え、過度に不安にさせないようにする。発達の順序性を理解することで、子への理解を深められるようにする。 ・ 遊びの発達 (ひとり遊び→平行遊び→共同遊び) ・ 言葉の発達 (語彙量や外言、内言) ・ 運動の発達 (粗大運動と微細運動について) 等、論理だけでなく、子の姿を例えに出しながら演じ、伝えていく。 | 講師 | |
| | 5 幼児の遊びの様子をロールプレイ | | 講師 社教主事 | |
| 3分 | 6 まとめ ・ 年齢ごとの発達は目安 ・ 生活リズムと愛着形成を土台に興味関心の芽を育て発達を見守る。 7 終了 | <ul style="list-style-type: none"> ・ まとめでは、あくまで個人差やペースがあることを伝え、不安にさせない。発達の順序性を知らせていく。 | 講師 | |
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達の順序性の重要さが理解できて、焦らずじっくり子育てしようと感じた。 ・ ロールプレイがあり、楽しく聞けた。 | | | |
| 成果と課題 | <p>【成果】 楽しい雰囲気の中で進めることで、途中でも質問が入ったり、参加者の話から広がったりなど、楽しく学ぶ機会となった。</p> <p>【課題】 発達には個人差が大きいので不安感を煽ることのないよう配慮が必要だと感じる。</p> | | | |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム



| | |
|-------|---|
| テーマ | 『あいさつと返事の習慣を』 (7ページ) ⇒ |
| 日時 | あいさつ運動 平成29年12月11日(月)～15日(金) 8時10分～9時10分 協議 平成30年1月15日(月)9時30分～10時15分 |
| 場所 | みどりが丘保育園・たちばな幼稚園門前, 協議: 保育室 |
| 対象者 | たちばな幼稚園保護者・園児 |
| 参加人数 | 約120人 |
| プログラム | 学習プログラム ・ アドバイスプログラム |
| 学習形態 | あいさつ運動(年長児親子) |
| 準備物等 | ・ひよこ(持っていない方へは、コピーして渡す) ・アンケート ・ワークシート |

プログラム内容

| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
|-----------|---|--|-----|----|
| 5分 20分 | ≪あいさつ運動≫ 1 開会・趣旨説明 2 グループあいさつ運動(一週間の中で) | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に参加できる日時を聞いておき、なるべく多くの保護者の方に参加して頂けるよう調節する。 ・他学年の保護者にも事前に「ひよこ」に目を通しておいてもらう。 | 園職員 | |
| 5分 | ≪協議≫ ・最終日に参加できる人 1 開会 趣旨説明とグループづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・親子であいさつ運動をしてみ、家庭でどんな効果があったか、返事についてはどうか情報交換する。 | 園職員 | |
| 20分 | 2 グループワーク | | 保護者 | |
| 10分 | 3 グループごとに発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつと返事を習慣化できるようにまとめる。 | 園職員 | |
| 5分 5分 | 4 まとめ 5 閉会 | | | |
| 参加者の感想 | | <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声でのあいさつはとても気持ちよく、一日のいいスタートになった。 ・あいさつの大切さを学べるいい機会になった。いい経験になった。 ・恥ずかしさから、声が小さかった。自分からできるようにしたい。 | | |
| 成果と課題 | | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動をしてから、自分からあいさつできるようになった。 ・以前より、大きな声でできるようになり、近所の人や外出先でも、進んであいさつできるようになった。 ・恥ずかしがってしまうこともあるので、親が見本を見せていきたい。 ・親自身の日常のあいさつや返事の習慣化についてアンケートなどを通して意識化を図る。 | | |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム

親子のつながり
生活リズムの確立

● 慣れれば夜寝、早寝・早起き・朝ごはん。
● 生活リズム（寝る・起きる）を揃えること。

「生活リズム」の確立を、
睡眠を促すことにより、身体にエネルギーが
蓄積され、やる気が起き、集中力が持続します。
また、体温を上げさせ、一日の身体のリズムを
整えることができます。

Check!

睡眠、起床の時間
を揃えてみましょう。

大人の手洗いやうがいの
習慣を身につけて
もらうようにしましょう。

point

「早寝・早起き・朝ごはん」
の習慣を身につけるには、
決まった時間に起こし、日
中の十分な活動が必要で、早く
起床する習慣が身に付けば、早く
寝るようになります。


point

子どもたちが寝やかに
成長していくためには、適
度な運動・十分な睡眠の
確保、十分な栄養の確保
が必要です。

「睡眠の睡眠状況」と「なんでもしたいにイライラする」との関係
睡眠不足は、子どもの情緒不安定や集中力の低下を引き起こす。

| テーマ | 『生活リズムの確立』 (8ページ) ⇒ ～「早寝早起き朝ごはん」の合言葉で生活リズム～ | | | |
|---------|---|--|------------|-----------------|
| 日時 | 平成29年10月31日(火) 10時00分～10時40分 | | | |
| 場所 | 美浦村立木原保育所 ホール | | | |
| 対象者 | 未満児保護者 | | | |
| 参加人数 | 36人 | | | |
| プログラム | 学習プログラム | | アドバイスプログラム | |
| 学習形態 | ワークショップ 【講師】栄養士(園所属) | | | |
| 準備物等 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭教育ブックひよこ プロジェクター パソコン 保育参観. 講話. 給食試食会アンケート | | | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| 5分 | 1 開会 ・ 所長挨拶 ・ 茨城県教育庁就学前教育 家庭教育推進員より「ブ ックひよこ」について ・ アイスブレイクをする。 「早寝早起き朝ごはん」○ ×クイズをする。 | <ul style="list-style-type: none"> 本日の活動のねらいを伝 える。 家庭教育ブックひよこの 活用についてわかりやす く伝えてくれる。 場の雰囲気や和らげる。 | 所長 県推進員 | 解答用紙 |
| 30分 | 2 講話 ・ 食事はバランスよく 「まごわやさしい」 ま…大豆・小豆など ⇒タンパク質マグネシウ ムなどの栄養素 こ…ごま・ナッツ・クルミ・ アーモンド ⇒不飽和脂肪酸 ビタミ ンE など抗酸化栄養素 わ…わかめ・こんぶ・のり ⇒ヨード, カルシウム や…野菜類 ⇒β-カロチン, ビタミンC | <ul style="list-style-type: none"> 食事はバランスを考 える 上で分かりやすい合言葉 で知らせていく。 「まごわやさしい」 クイズ方式で保護者の皆 さんにも考えてもらいな がら進行する。 | 栄養士 | パソコン プロジェクター |



| | | | | |
|--------|--|---|-----|-------|
| 5分 | <p>【さ】…魚類 ⇒タンパク質, 亜鉛</p> <p>【し】…しいたけ・しめじ・きのこ類 ⇒多糖類, 食物繊維</p> <p>【い】…じゃがいも・さつまいもなどいも類 ⇒食物繊維, 炭水化物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食材の働き ・発酵食品…納豆・ヨーグルト・ぬかづけ・みそ セシウムが体に入りにくくなる。 ・酸性アルカリ性食品 ・カリウムとリンの割合 ・「食育」の合言葉は「おいしいな」 ・よく噛んで食べることの大切さについて ・慣れれば快調、「早寝・早起き・朝ごはん」 ・生活リズム（寝ること・食べること・遊ぶこと）の確立を。 <p>3 質問 4 閉会 5 給食試食会 6 アンケートの記入</p> |  <ul style="list-style-type: none"> ・「食育」の合言葉は「おいしいな」 【お】…おはよう、ごはんを食べましょう。 【い】…いただきます、ごちそうさまをいしましょう。 【し】…しっかり野菜をたべましょう。 【い】…いばらきの食べ物を味わいましょう。 【な】…なかよくみんなで食事を楽しみましょう。 ・「朝食の摂取状況」と「なんでもないのにイライラする」との関係を知らせる。 ・「早寝早起き朝ごはん」の効果やコツについて分かりやすく説明する。 <p>・今日の講話や試食会などに参加しての感想を自由に記入していただく。</p> | 各担任 | アンケート |
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士さんの話もとても面白く、勉強になった。 ・食べ合わせの話や、和食についてのお話はとても興味深かった。 ・朝ごはんをしっかり食べるには、朝起きてから少し時間がたたないと食べられないようなので、早く寝かせないとな、と反省した。 | | | |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく子育てに取り組むためのアドバイスブックとしての活用を勧める上でとても良い教材であった。 ・家庭の教育の低下が感じられる昨今家庭教育ブックひよこの活用が浸透するよう保育参観などの折に保育所でも活用し、今後も知らせていく。 | | | |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム

子育てのサポート きまりを守る心を育てる

して良いこと、してはいけないことを覚えるとき、なぜ、いけないのかなど、どうしてか分からないでいいから、その理由を、子どもが考えられるように伝えていきます。

Check!

- 講義にまだ分からない点がある場合は、講師に質問してください。
- 講義にまだ分からない点がある場合は、講師に質問してください。

go!

子どもは、覚えたことを繰り返すことで、学習に定着します。繰り返し練習することで、学習の成果は高くなります。子どもは、覚えたことを繰り返すことで、学習に定着します。繰り返し練習することで、学習の成果は高くなります。

| テーマ | 『きまりを守る心を育てる』 (9ページ) ⇒ | | | |
|---------|--|--|------------|----|
| 日時 | 10月18日(水) 12時30分~13時00分 | | | |
| 場所 | とうかい村松宿こども園 | | | |
| 対象者 | 3歳児保護者 | | | |
| 参加人数 | 10人 | | | |
| プログラム | 学習プログラム | | アドバイスプログラム | |
| 学習形態 | 講義 【講師】村教育委員会幼児教育担当 | | | |
| 準備物等 | ・家庭教育ブックひよこ | | | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| 3分 | 1 挨拶と自己紹介 | ・講義中もつぶやきや質問が飛び交うような雰囲気づくりを心がける。 | 講師 社教主事 | |
| 5分 | 2 ラーニングピラミッドの解説(ホワイトボードに描いて定着率をクイズ形式) | ・講義型の学習定着率は低く、思いを伝え合い、学びあった方が、学習が定着することをクイズ形式で知らせる。 | 講師 | |
| 4分 | 3 自己制御(我慢)が可能になってくる時期とメカニズムを解説 | ・小脳、脳幹、大脳の働きとセロトニンの役割について、メカニズムを分かりやすく、幼児の姿を示しながら伝える。 | 講師 | |
| 5分 | 4 4歳児のマシュマロ実験についての解説 | ・実験の結果を示し、自制心を身につける大切さを伝える。 | 講師 | |
| 10分 | 5 自制心を身につけるためのポイント(共有型しつけと強制型しつけ) | ・ロールプレイによるO×クイズを行い、楽しい雰囲気の中で、共有型しつけを学べるようにする。 | 講師 社教主事 | |
| 3分 | 6 まとめ ・自制心を身につけるには、共有型しつけ ・スモールステップを認めていく 7 終了 | ・まとめでは、あくまで個人差やペースがあることを伝え、不安にさせない。 ・子のペースを大切に、温かく見守る方が、早く身につけていくことを知らせる。 | 講師 | |
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・我慢(自制)できるようになる年齢が分かったことがよかった。 ・指示や命令でなく、共有型のしつけを心がけたい。 | | | |
| 成果と課題 | <p>【成果】エビデンスを示したことで、納得して聞いてくれたようだ。</p> <p>【課題】全体的に時間配分に窮屈感があつた。もう少し時間があるとよい。</p> | | | |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム



| テーマ | 『子どもの話をしっかり聴きましょう』（10 ページ）⇒ | | | |
|---------|--|---|---------------------|-------|
| 日時 | 平成 29 年 12 月 21 日(木) 13 時 15 分～14 時 00 分 | | | |
| 場所 | 鹿嶋市立三笠幼稚園各教室 | | | |
| 対象者 | 鹿嶋市立三笠幼稚園保護者(3 歳児～6 歳児保護者) | | | |
| 参加人数 | 70 人 | | | |
| プログラム | 学習プログラム | | アドバイスプログラム | |
| 学習形態 | 学級懇談の機会を活用したグループ協議 | | | |
| 準備物等 | ・家庭教育ブック「ひよこ」P10のコピー資料 ・話し合いの内容表 | | ・アンケート ・話し合い記録用紙 | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| 5分 | 1 担任から話し合いについての説明をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの3つの柱について簡潔に説明する。 ・話し合いは、3～4名のグループをつくり、司会者、記録者を決めてから進めるようにする ・話し合いが活発に進んでいないグループについては、具体的な場面を想定して話し合いをするように助言する。 ・各グループの発表を受けて子どもと向き合う時間の大切さについて話をし、まとめる。 | 担任 | アンケート |
| 25分 | 2 グループによる話し合い。 ①どんなときに、子どもの話を聴いていますか。 ②子どもの話を聴いてられないのは、どんなときですか。 ③子どもの話を聴きたいが聴けないときに、どんな言葉で子どもに返していますか。 | | | |
| 5分 | 3 グループ発表 | | | |
| 5分 | 4 担任の話 | | | |
| 3分 | 5 アンケートの記入 | | | |
| 参加者の感想 | ・幼稚園への送迎時や車の中などで、子どもの話を聴いている方が多かったが、子どもが聴いてほしい場面で家事などの手を止めて聴いてあげられるように心がけたいと思った。 | | | |
| 成果と課題 | ・事後のアンケートで、「話し合いで参考になる意見を聞いたり交流を図ることができたりして、とてもよかった。」などの意見が多く寄せられた。 | | | |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム

親子とのおせわり
メディアの視聴

現代の子どもたちは、携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、テレビ、パソコン、DVDプレーヤーなど、多くの電子メディア機器に囲まれて生活しています。メディアは上手に利用することが大切です。メディアに守るべきルールを定めるためにも、家庭でルールを決めておくようにしましょう。

Check!

- 「楽しんでいるよ」といって、子どもがメディアの視聴を止めないでいるか?
- メディアについて話し合えるか?

point

家族みんなが安心してメディアを楽しむ生活を送りたい。視聴のルール、視聴時間、視聴場所、そしてコミュニケーション能力の低下などを気にかけておく必要があります。

また、家の中でも、外でビデオカメラを所持しながらも、スマートフォン等を所持しながらの子供では、子どもから目を離すことになり、安全に監視ができなくなっています。

幼児期の子どもは、身近な人との関わり合いや自然体験などの喜びを通して人間性を発達させ、心や身体そして五感が発達していきます。家庭でメディアとの関わり方について、親子の関わり、端末を適切に活用して、親子と一緒に楽しむ時間を大切にしましょう。

【家族で決めてみましょう】

- メディアを視聴する時間帯は、家族で決めて、決まらぬようにします。
- 食事しながらのテレビ、ビデオ、携帯電話、スマートフォンなどの使用を控えさせます。
- 寝ているときには、テレビを消すようにします。
- すべてのメディア視聴に際する時間の制限を決めて（1回1日1時間以内を目安に）、親子で一緒に実行しましょう。
- 子ども自身に、タブレットの「プレーヤー」、パソコン、タブレット端末などのメディア機器を置くのは控えましょう。

| テーマ | 『メディアの視聴』 (11 ページ) ⇒ | | | |
|----------------|---|--|--|--------------------------|
| 日時 | 平成 30 年 1 月 22 日(月)～1月 25 日(木) 13 時 30 分～ | | | |
| 場所 | 鹿嶋市立三笠幼稚園各教室 | | | |
| 対象者 | 鹿嶋市立三笠幼稚園保護者（3 歳児～6 歳児保護者） | | | |
| 参加人数 | 70 人 | | | |
| プログラム | 学習プログラム | | アドバイスプログラム | |
| 学習形態 | 個別面談の機会を活用したアドバイスプログラム | | | |
| 準備物等 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育ブック「ひよこ」P11 のコピー資料 ・リーフレット「メディアの視聴について」 | | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| 15 分 | <ol style="list-style-type: none"> 1 担任から事前にリーフレット「メディアの視聴について」を配付し、各家庭で事前に目を通してもらう。 2 個別面談において、家庭でのメディア視聴について確認する。 <ol style="list-style-type: none"> ①視聴時間 ②視聴におけるルールの確認 ③今後のメディア視聴・利用の仕方 3 アンケートの配付 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別面談の前には、必ず目を通してもらえるように周知する。 ・家庭でのメディア視聴の現状を把握するため、3つの内容について話し合いをするようにする。 ・メディアチェックシートを使い、現状を自己評価してもらう。 ・メディアについての現状把握と課題解決に向けた今後の取組につなげていく。 | 担任 | メディアチェックシート アンケート |
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・時間やルールを決めて見せることや、できるだけ子どもと一緒に見て、会話をしながら楽しむようにしていきたい。 ・目的をもって視聴させることも大切である。 | | | |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・メディア視聴についてのリーフレットを作成したが、約 80% の保護者から参考になったという意見を得ることができた。 ・家庭での考え方の相違もあることから定期的にメディアの視聴について実態を把握し、学級懇談などのテーマとして話し合う機会を持つことも必要である。 | | | |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム



| テーマ | 『食育の大切さ』 (12ページ) ⇒ ～子どもの知・徳・体をはぐくもう～ | | | |
|---------|---|--|-----------|--------------------------------|
| 日時 | 平成29年11月17日(金) 10時00～11時30分 | | | |
| 場所 | 茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園遊戯室ホール | | | |
| 対象者 | 3歳から5歳児の保護者 | | | |
| 参加人数 | 28人 | | | |
| プログラム | 学習プログラム ・ アドバイスプログラム | | | |
| 学習形態 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 【講師】茨城キリスト教大学 教授 井川 聡子 氏 ※ 講師は市町村保健センターに要相談(依頼を含め) ・ グループワーク | | | |
| 準備物等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭教育ブックひよこ・パワーポイント・スクリーン・プロジェクター ・ レジュメ資料・食育関係教材模型(野菜総量模型, 油脂含有食品, 砂糖含有食品) ・ 食育ランチョンマット・試食(園児用おやつ) | | | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| 3分 | 1 開会の挨拶 | | 副園長 | |
| | 2 園長挨拶(講師紹介含む) | ・ 保護者への感謝を伝える。 | 園長 | |
| 60分 | 3 講義 「食育の大切さ」 ・ 「家庭教育ブックひよこ」の紹介 ・ 食を通じた子どもの健全育成のねらい及び目標 ・ 成長期の食事のポイント ・ 栄養バランスを整えやすい食事構成 ・ 幼児期の食事 ・ ランチョンマットを活用した食育 ・ 幼児期の栄養量と間食の目安量 ・ 子どもの味覚を育てよう ・ 食育を勧めるスローガン | <ul style="list-style-type: none"> ・ 遅れてきた保護者に資料を配り、席に誘導する。 ・ 保護者が連れてきている未就園児の動きに気を配る。 | 講師 副園長 | PC プロジェクター スクリーン レジュメ |
| 15分 | 4 グループワーク ・ グループ長を決める。 ・ 試食しながら、交流を深める。 ・ 「子どものおやつについて」をテーマに情報交換を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 試食を通して、グループの雰囲気と和ませる。 | グループ長 | |
| | | 【グループワークのまとめとして】 おやつは、手づくりでこだわらず、市販のものでも良い。購入する際に、成分表示を見る習慣をつけ、食事に影響のない適量を与えるように心がけることを伝える。※本日の資料を参考にする。 | | |
| 12分 | 5 閉会(アンケート記入) | | 園長 | |
| | 6 個別に質問等 | ・ 模型(フードモデル)を自由に見られることを声かけし、個別に対応できる雰囲気をつくる。 | 講師 | |

| | |
|--------|--|
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・成長とともに子どもの食の量が増え始め、分量について悩んでいました。年齢に合った塩分や砂糖等の摂取量を具体的に教えていただけ良かったです。 ・毎日悩みながらの食事作りでしたので、本当に参考になりました。おやつの内容も気をつけようと思います。 ・食品サンプルも見せていただけて分かりやすかったです。 |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の食の大切さについて、具体的に学ぶことができていた。また、生活の見直しに役立ったという声も聞かれた。 ・茨城県や日立市の食に関する特色が、紹介され日常生活に密着しているテーマであった。 ・託児があるともっとゆっくり聞けたという意見もあり、今後の課題である。 |

【講義の様子】



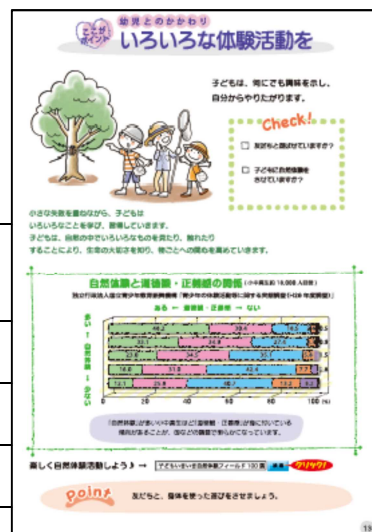
【模型（フードモデル）】



【ランチョンマット】

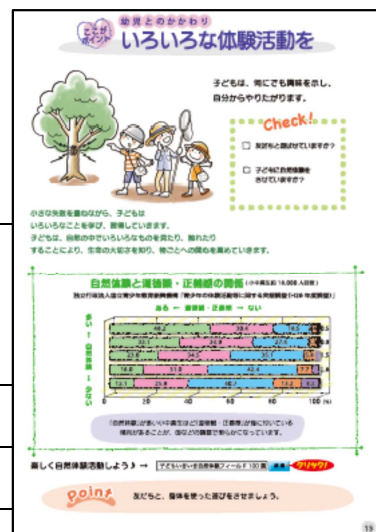


家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム



| テーマ | 『いろいろな体験活動を』① (13 ページ) ⇒ ～おもしろ理科先生「スライムの科学」～ | | | |
|-----------|---|-------------------------|-----------------|-----------|
| 日時 | 平成 29 年 11 月 7 日 (火) | | | |
| 場所 | 美浦村立美浦幼稚園 遊戯室 | | | |
| 対象者 | 年長児親子 | | | |
| 参加人数 | 親子 49 組 | | | |
| プログラム | 学習プログラム ・ アドバイスプログラム | | | |
| 学習形態 | ワークショップ 【講師】おもしろ理科先生 (生涯学習センターより派遣) | | | |
| 準備物等 | ・スライム材料 ・テーブル ・椅子 ・ミルクブロック ・ビニール ・雑巾 ・布巾 | | | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間 (分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| 3分 | 1 開会 (講師紹介を含む) | ・ 本日のテーマをわかりやすく伝える。 | 教頭 | 材料の配布 |
| 5分 | 2 スライム作りの手順の説明 | ・ 図や写真を使っでの説明で理解しやすくする。 | 講師 ↓ 学年主任 | ・ テーブル |
| 18分 | 3 親子でのスライム作り | ・ 説明を聞きながら、親子での作業を進める。 | | ・ ミルクブロック |
| 5分 | 4 スライムで遊ぶ | ・ 職員が必要に応じて援助する。 | | ・ パイプ椅子 |
| 7分 | 5 スライムからスーパーボールを作る | ・ 特性を知らせる。 | | ・ ビニール |
| | 6 閉会 (感想の記入) | | | ・ 雑巾 |
| | | | | ・ 手拭き |
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭では中々できない体験を子供と一緒にすることができて楽しかった。 ・ 話を聞き集中して活動に取り組む姿に成長を感じた。 ・ 家庭でも親子でまたスライム作りをしたい。 | | | |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「スライム作り」という親子での共通体験を通して、作り方を知り、特性を知って楽しむことができた。興味を持って取り組む子が多く、今後の保育活動の中でも活かしていきたい。 | | | |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム



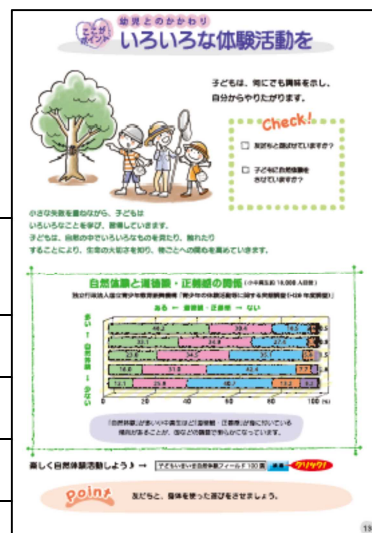
| | |
|-------|--|
| テーマ | 『いろいろな体験活動を』② (13 ページ) ⇒ ～おもしろ理科先生「おもしろい動きを楽しもう」～ ・親子で一緒に簡単なもの作りをし、ものの動きのおもしろさを実感する。 |
| 日時 | 平成 29 年 11 月 10 日 (金) |
| 場所 | 美浦村立美浦幼稚園 遊戯室 |
| 対象者 | 年中児親子 |
| 参加人数 | 親子 46 組 |
| プログラム | 学習プログラム ・ アドバイスプログラム |
| 学習形態 | ワークショップ 【講師】おもしろ理科先生 (生涯学習センターより派遣) |
| 準備物等 | ・材料 ・ テーブル ・ 椅子 ・ ミルクブロック ・ マジック ・ セロテープ ・ハサミ |

プログラム内容

| 時間 (分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
|--------|--|---|------|--|
| 3分 | 1 開会 (講師紹介を含む) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日のテーマ・内容をわかりやすく伝える。 ・ 図や写真を使っでの説明で理解しやすくする。 ・ 説明を聞きながら、親子での作業を進める。 ・ 職員が必要に応じて援助する。 | 教頭 | 材料の配布 |
| 37分 | 2 作り方の手順説明 3 親子で作る。 作ったもので遊ぶ ・イカ焼き ・ねこの着地 ・磁石の動きいろいろ (クルクル・コロコロ) ・ビー玉 (折り紙コロリン・UFO) | | 講師 | <ul style="list-style-type: none"> ・ テーブル ・ ミルクブロック ・ パイプ椅子 ・ マジック ・ セロテープ ・ ハサミ |
| 3分 | 4 閉会 (感想の記入) | | 学年主任 | |

| | |
|--------|--|
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近なもので簡単にいろいろと作れて楽しかった。 ・ ハサミが上手に扱えるようになり成長を感じた。 ・ 家庭でもまた一緒に作って遊んでみようと思った。 |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近にある材料でおもしろい動きをするおもちゃを作り、遊ぶことを親子で楽しむことができた。大変、興味を示していたので今後の保育活動に取り入れて活かしていきたい。 |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム



| | |
|-------|--|
| テーマ | 『いろいろな体験活動を』③ (13 ページ) ⇒ ～親子ふれあい遊び, じゃれっこ遊び (親と子のふれあい体操)～ |
| 日時 | 平成 29 年 11 月 14 日 (火) |
| 場所 | 美浦村立美浦幼稚園 遊戯室 |
| 対象者 | 年少児親子 |
| 参加人数 | 親子 37 組 |
| プログラム | 学習プログラム ・ アドバイスプログラム |
| 学習形態 | 体験学習 【講師】体操教室講師 |
| 準備物等 | ・ 放送の用意 |

プログラム内容

| 時間 (分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
|--------|--|--|--------------|-------|
| 3分 | 1 開会 (講師紹介を含む) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日のテーマ・内容をわかりやすく伝える。 ・ 動きやすいように場の設定をする。 ・ 職員が必要に応じて援助する。 | 教頭 講師 | 放送の用意 |
| 40分 | 2 親子でのふれあい遊び じゃれっこ遊び ・ 親と子のふれあい体操 ・ 親子で、手先や指先、体を使った遊び ・ 抱っこ ・ おんぶ ・ 曲に合わせて踊る ・ スキップ など | | | |
| 5分 | 3 閉会 (感想の記入) | | 学年主任 | |



| | |
|--------|--|
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生のインパクトが強く驚かされたが、親子共々とても楽しく過ごすことができた。 ・ 充実した時を過ごすことができた。家庭でも子どもと一緒に体を動かしてみたい。 ・ 久しぶりに抱っこしてこどもの成長を感じた。今後も親子で楽しみたい。 |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 親子で一緒に体を動かし楽しむことができた。 ・ 運動をする為、服装 (スカート不可) ・ 上靴 (運動靴) が良いなどの詳しい案内が必要であった。 |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム

病気・事故

聴が出た!

聴が出た! 聴が出た! 聴が出た! 聴が出た! 聴が出た!

やけどをした!

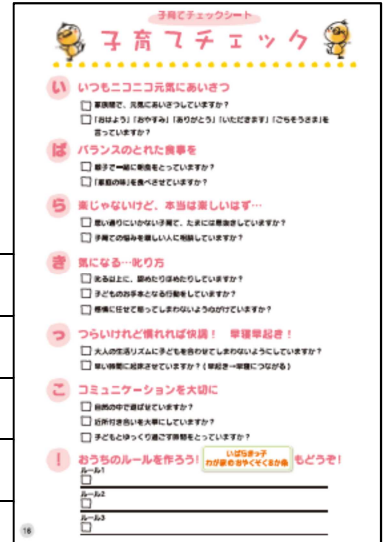
やけどをした! やけどをした! やけどをした! やけどをした! やけどをした!

頭を打った!

頭を打った! 頭を打った! 頭を打った! 頭を打った! 頭を打った!

| テーマ | 病気・事故 (15 ページ) ⇒ | | | |
|---------|---|---|---|--------|
| 日時 | 平成 29 年 11 月 1 日 (水) 9 時 15 分～10 時 15 分 | | | |
| 場所 | 美浦村立大谷保育所 ホール | | | |
| 対象者 | 未満児の保護者 | | | |
| 参加人数 | 47 人 | | | |
| プログラム | 学習プログラム | | アドバイスプログラム | |
| 学習形態 | 講話・ワークショップ 【講師】所の看護師 | | | |
| 準備物等 | <ul style="list-style-type: none"> 「家庭教育ブックひよこ」から抜粋した資料 参考資料「何科を受診する？」 | | <ul style="list-style-type: none"> 感想カード | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間(分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| 3分 | 1 開会 (講師紹介を含む) | | 副所長 | |
| 5分 | 2 所長挨拶 | | 所長 | |
| 15分 | 3 講話 | <ul style="list-style-type: none"> 簡単に本日の趣旨を説明する。 この時期に、かかりやすい病気や事故について資料を基に簡単に話す。 質問を受け答える。 | 所の看護師 | 資料 2 枚 |
| 25分 | 4 ワークショップ | <ul style="list-style-type: none"> グループでリーダー、書記を選出する。 自己紹介を兼ねて、自分の子どもがかかった「病気や事故」について情報交換。 | 各グループのリーダー | |
| 10分 | 5 発表 | <ul style="list-style-type: none"> グループごとに発表 | 各グループの書記 | 感想カード |
| 2分 | 6 閉会 | | 副所長 | |
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの病気・怪我の対処法や病院の情報などを聞く事が出来てよかった。 普段同じクラスでも顔を合わせないお母さん方と話し合うことができてとてもよかった。 成長するに従い色々な病気や怪我が増えてくることを知り参考になった。 | | | |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> 講師が保育所の看護師という事で、気軽に質問などもでき有意義だった。 クラス単位でグループを作り、子どもに関する身近な問題についての話し合いだったので、スムーズに進行し実のある会だった。 保育参観等の時に、「家庭教育ブックひよこ」を活用する機会をもっと増やしたい。 | | | |

家庭教育支援資料「家庭教育ブック ひよこ」実践プログラム



| | | | | |
|---------|--|--|------------|----|
| テーマ | 『子育てチェック』 (16 ページ) ⇒ | | | |
| 日時 | 平成 30 年 3 月 6 日 (火) | | | |
| 場所 | 茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園 | | | |
| 対象者 | 4 歳児保護者, 5 歳児保護者 | | | |
| 参加人数 | 100 人 | | | |
| プログラム | 学習プログラム | ・ | アドバイスプログラム | |
| 学習形態 | 配布 (アドバイス原稿: 茨城キリスト教大学 准教授 飛田 隆 氏) | | | |
| 準備物等 | ・ アドバイスカードセット | | | |
| プログラム内容 | | | | |
| 時間 (分) | 内容 | 留意点 | 担当者 | 備考 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 園児を通して、各家庭に配布する。 | <ul style="list-style-type: none"> アドバイスカードの配布に関する記事を、園だよりに掲載し、活用を促す。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 本テーマは、全ての保護者に生活に取り入れてほしい内容であることから、お財布に入れたり、壁に掲示したりできるように、カード形式で作成して、繰り返し見直すことができるようにした。 本園の園児は、園バスでの登降園となることから、全家庭に配布するため、園児を通して配布した。 保護者が手に取ってみようと思う形式にし、まず読んでもらい、保護者の不安や疑問は、保護者から教員に声をかけてもらうようにした。 | | | |
| 参加者の感想 | <ul style="list-style-type: none"> かわいらしい色合いで、読んでみようと思いました。「なるほどな」と思うことが書いてあり、参考になりました。 一言アドバイスになっていて、読みやすかったです。 | | | |
| 成果と課題 | <ul style="list-style-type: none"> 日々の子育てで大切にしてほしいことを保護者に伝えることができた。 園バスによる登降園を実施している園では、アドバイスカードをどのように配布するか、工夫が必要である。 保護者がいつも何かに悩んでいるということはなく、また、保護者が必要としていることを的確に把握することも難しい。効果的な活用法について検討していく必要がある。 | | | |

【アドバイスカードセット】

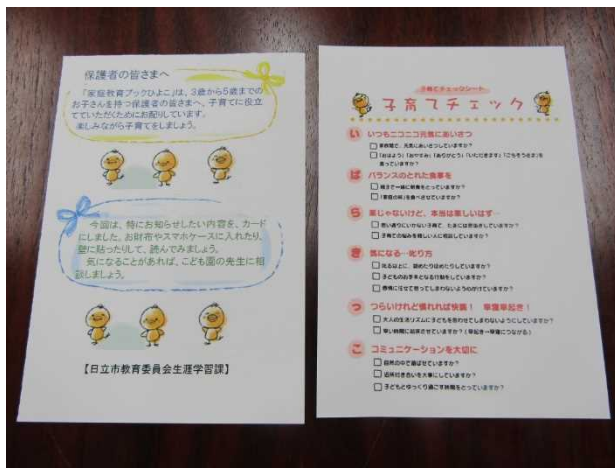
アドバイスカード6枚（表）



アドバイスカード6枚（裏）



保護者向けの説明



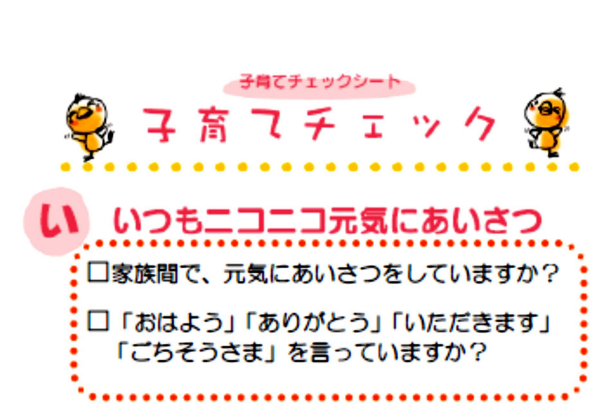
セット



【アドバイスカード記載内容（抜粋）】

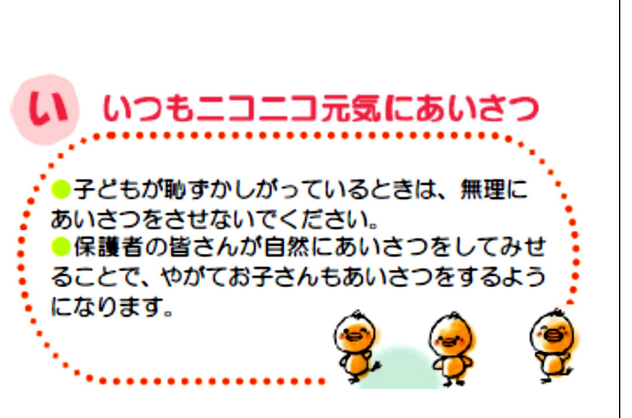
（表面）

チェックシートの内容



（裏面）

表面に対するアドバイス





「茨城県家庭教育を支援するための条例」が公布・施行されました

笑顔の花を咲かせよう

～みんなで支える家庭教育～



茨城県教育庁
就学前教育・家庭教育推進室
TEL 029-301-5132



家庭教育応援ナビQRコード



【問合せ先】

茨城県教育庁就学前教育・家庭教育推進室

〒310-8588 茨城県水戸市笠原町 978 番6

☎ 029-301-5132

